

# やまゆり

学校だより

令和5年8年月29日  
36号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー  
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「居心地が良く、やる気のある学級づくり」

「いじめ防止」を徹底し、安心・安全な学校教育を推進しています

8月25日(金)に、各学年職員が「いじめ防止」の指導を行いました。2学期の充実した学校生活や若鮎祭の成功のために、「一人一人の精神的安全の大切さ」を理解し、協働していじめ防止を創り上げるための学習をしました。

特に若鮎祭の取り組み中は、①個人の意識や能力の差が開く、②生徒が真剣に活動し意見を言う機会が増える、③教職員の目が届かないところでの活動が増える事などを考えると、いじめの認知が増える可能性が高い時です。

お互いの違いを乗り越え、適切な配慮と関わり、そして友人としての支えが必要であることを自覚し、「いじめ防止のための共助」について一人一人が真剣に学びました。

熱中症やいじめ予防など、学期はじめに命や人権を守るための重要な指導を計画的にしっかりと行っています。いじめ予防は、特設学活を年間5回計画し、「危険を予測し、知識や技能を活用し、自分や友人の人権や命を守れる」教育をしています。

いじめの問題は、家庭や地域、日本の問題でもあります。ご協力をお願い致します。

3年生の学級指導の様子 主体的に意見を出し合い、真剣に取り組みました

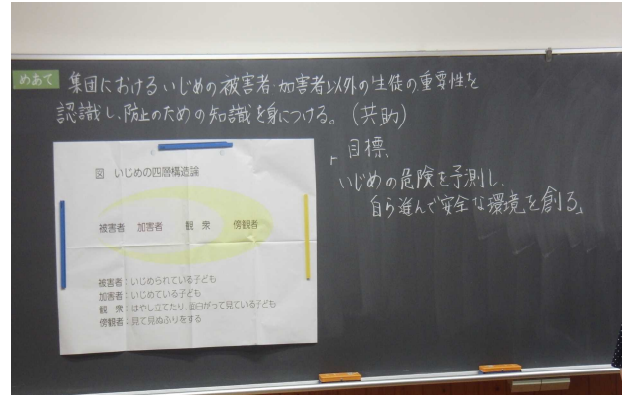


2年生の学級指導の様子 高村先生が中心に指導し、中山先生・外川先生も指導しました



1年生の指導 鈴木先生が中心に指導しました

「いじめ防止の共助」の大切さを指導



## いじめ予防 「共助の大切さ」を生徒自ら考える指導

いじめ対応における「共助」はなぜ重要なのか	「いじめ」を知ったときどのような行動をすべきですか	いじめを減らすために、あなたが友達や周りの人と協力するできることはどんなことがありますか
いじめを無くすため。それぞれが支え合って生きるため。	周りの大人や、先生に相談する。	見て見ぬふりをしないで、人のことを考えて行動する。
お互いに認めあって、誰かを孤立させたり一人にしないため。	声をかけたり、もし声をかけられなかったら、先生や身近な大人に相談する。	意見を否定せずに反応したり、ささいなことでも感謝をして認め合ったり、孤立をつくらない、一人にしない。
被害者の支え。	先生に言ったり信用できる大人などに言う。	相談をしっかり聞いてあげる。
一人で相談せずに悲しんでいてもいじめはなくなる。相談していじめがなくなるようにする。	周りの人に相談したり教えたりする。直接やめてほしいと言う。	いじめられたりいじめられている人がいたらすぐ報告する。
一人で解決できなかつたり、一人で悩むと解決できないことが多いから。	話を聞いてあげる。先生に伝える。	いじめられている人を見たら、話を聞いてあげることを確認したりする。
被害を受けた人が自分から先生や親に言い出せないというときに友人など気軽に話せる人に話し、そこから見ることが出来るから。	親や先生に報告したり、道志sosフォームに書き送信する	日常的に会話をしたりする。



		先程と同様でクラスの全体でいじめを許さない雰囲気を作ることができると思う。
相手のことを救える可能性があるから。	加害者に向けて、やめるように説得する。	友達の輪の中に入れてあげる。
被害を少なくするために必要だから。	先生に知らせたり、被害者に寄り添ったりする。	いじめが起こらない環境づくりや、信頼関係をつくっていく。
お互いが助け合うことで、被害者が自殺をしなくなるから。	いじめが起こったことを先生に報告する。被害者を支えてあげる。	自分自身が陰口を言わないようにする。
お互いを助け合ったり、高め合ったりするため。また、一人ひとりの成長につながるから。	自分から「やめなよ」と加害者の言動を注意する。	顔をうかがう。日頃から気にかける。
傍観者が勇気を出して加害者にいうだけでいじめの6割が解決するから。	加害者に直接言う。無理だったら先生に言う。被害者に声をかける。	加害者に一人で言う勇気がなかったら友だちと一緒に言う。
自分では、どうしようもなくなった時に周りの助けが必要であり周りの行動で6割のイジメがなくなるから。	自分で解決できるのであればして、問題が大きければ先生に相談する。	周りの様子を見て、何か不審なことがあったら話をして確認したい。

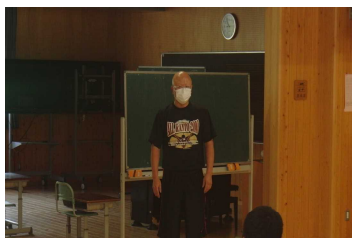
## 「共助の学習」を受けて、「いじめ減災集会」・「若鮎祭決起集会」をしました

各学年でのいじめの共助の指導を受けて、8月28日(月)に「いじめの減災集会」をしました。減災とは、自然災害と同じようにゼロには出来ないからです。また若鮎祭決起集会も行いました。

企画した生徒会執行部



主な指導の三浦先生



縦割り班ごとに協議 A班



B班の協議の様子



C班の様子 生徒自身の協議が重要 最後は心を一つに決起！



